

春の全道火災予防運動

4月20日～4月30日

火の用心 まことに形に 習慣化

火災の全道火災予防運動は、

にあたります。逃げ遅れに

火災が発生しやすい季節を迎えるに当たり、火災の予防思想の一層の普及を図り、

より避難を防止するためにも高齢者だけを家に残したまま外出するときはご近所に一声かけるなど日頃から掛けましょう。

火災の発生を防止しようと行われるものです。特に住宅火災では、高齢者を中心とする犠牲者が約7割と増えていますので、火災による高齢者の死傷者を大幅に減少させることを目指して

火災の発生原因で1番多いのはたばこによる火災です。たばこの火の不始末や寝たばこにより火災が多く発生しています。たばこを吸つた後は完全に火を消してるようにしましょう。

平成29年の1月～9月までに全国で発生した火災の件数は3万6百51件で、これは、1日あたりおおよそ112件、13分ごとに1件発生していることになります。その内、総死者数は千81人で、建物火災で亡くなつた方は820人となっています。亡くなつた方の内、65歳以上の高齢者は約7割

ると、そこに放火される可能性もあります。家の周りは整理整頓し燃えやすい物は外に置かないようにしましょう。

住宅用火災警報器の奏功事例

度本体のひもを引くかボタンを押し、いざという時に確実に作動するように確認しましょう。

渡島管内において住宅用火災警報器が有効に作動し大事に至らなかつた事例を紹介します。

事例1 渡島管内において住宅用火災警報器が有効に作動し大事に至らなかつた事例を紹介します。

居住者がコンロで天ぷら油を加熱していたが、目を離した隙に煙と炎が発生、この煙により住宅用火災警報器が作動した。警報音に気づいた居間にいた居住者が台所へ行き鍋に蓋をして消火し、大事に至りませんでした。

電池の寿命は10年が目安となります。電池の寿命が近づくと音声やランプで知らせてくれますので新しい電池と交換しましょう。

また交換しても作動しない場合は本体の故障が考えられますので販売元へ連絡し修理及び交換を依頼しましょう。

その他不明な点があります

4月になり、入山される方も増え、タバコの投げ入れや枯葉・枯草焼きの飛び火などが原因で林野火災が多く発生する季節となりました。タバコなどの小さな火種でも、乾燥した枯葉等は燃えやすく、大きな炎となり木々に燃え移ります。

野焼きは法律で禁止されており、役場や消防で許可できるものではありません。

一人ひとりが火の取り扱いに注意し、火災を未然に防ぎましょう。

(管理課指導係)

空気が乾燥し、火災が発生しやすくなります

4月になり、入山される

方も増え、タバコの投げ入れや枯葉・枯草焼きの飛び火などが原因で林野火災が

多く発生する季節となりま

した。タバコなどの小さな火種でも、乾燥した枯葉等

は燃えやすく、大きな炎となり木々に燃え移ります。

野焼きは法律で禁止されており、役場や消防で許可できるものではありません。

一人ひとりが火の取り扱いに注意し、火災を未然に防ぎましょう。

4月になり、入山される方も増え、タバコの投げ入れや枯葉・枯草焼きの飛び火などが原因で林野火災が

多く発生する季節となりました。タバコなどの小さな火種でも、乾燥した枯葉等

は燃えやすく、大きな炎となり木々に燃え移ります。

野焼きは法律で禁止されており、役場や消防で許可できるものではありません。

一人ひとりが火の取り扱いに注意し、火災を未然に防ぎましょう。



火災の件数 知っていますか？

平成29年の1月～9月までに全国で発生した火災の件数は3万6百51件で、これは、1日あたりおおよそ112件、13分ごとに1件発生していることになります。

その内、総死者数は千81人で、建物火災で亡くなつた方は820人となっています。亡くなつた方の内、65歳以上の高齢者は約7割

とあります。亡くなつた方の内、65歳以上の高齢者は約7割

事例2

タバコの不始末により灰皿に溜まつた吸い殻が燃え煙が発生、設置していた住宅用火災警報器が作動し警報音に気づいた居住者が消火し、大事に至りませんでした。

問 松前消防署

42-2119